

ボランティア情報



福祉教育わたしの実践

沖縄県 浦添市社会福祉協議会 ボランティア市民活動支援センター
ボランティアコーディネーター

いしはらひろき
石原宏紀さん



【 公民館での蜂蜜づくりを通じた新たな福祉教育 】

浦添市社会福祉協議会（以下、市社協）は2021年、「蜜蜂ぶんぶんプロジェクト」を実施しました。これは蜂蜜づくりを通して、就労不安をかかえる若者の社会参加を支援するというものです。

きっかけは、コミュニティーソーシャルワーカー（以下、CSW）だった石原さんがひきこもり当事者から「就労したいがすぐには難しい。蜂蜜づくりはできないか？」と相談を受けたことにあります。一方で、地域貢献をしたいが何をしたらいいかわからないという若者からの相談や、高齢化にコロナ禍が重なり、地域活動の担い手不足がより深刻化した自治会からの悩みも寄せられていました。

こうした地域住民とともに「共に生き

る」をテーマとした福祉教育推進プラットフォームを形成し、養蜂活動を通じたまちづくりを展開するプロジェクトを開始しました。

はじめにメンバー同士の顔合わせをして、それぞれの課題を共有し、社協職員によるミニ講話で社会的孤立や地域活動の問題を確認しました。そのうえで、プロジェクトにCSWなどを加えてボランティア団体「Bee Free」を設立しました。市の助成金を利用し、養蜂園の専門家の協力を得て活動を開始、2021年9月には地域の公民館で巣箱設置の「入居式」を開催しました。そして同年12月には無事採蜜に成功しました。

当初、学校に巣箱設置を断られたという石原さんは次のように語ります。

「ひきこもりの人と接した経験がないため、不安を感じたようです。しかし、Bee Freeの前向きな活動の様子が多くの方の理解につながったと思います。また、ひきこもり当事者からは『人間関係って思ったよりおもしろい』という、うれしい感想も聞かれました。」

石原さんは、福祉教育は高齢者や障害者などにテーマが限定されがちである点にも課題を感じていました。本プロジェクトを新たな福祉教育のテーマとして展開することが次の目標です。石原さんは「福祉教育とは自分と違う誰かを知ること」と表現します。その意味で、多様な人がともに活動した本プロジェクトは、確かな成果と新たな展望を感じさせるものになりました。

Contents

- P.2 ▶ **特集** つながり切らない！ 福祉まつりをボランティア活躍の場に
- P.6 ▶ **社会課題に挑む** 住民へ、企業へ。理解を広げ「気にかける大人」を地域に増やす
- P.7 ▶ **必見！ 仕掛け人！ ノウハウを学ぼう！** P.8 ▶ **読者のひろば**